

第3回花見川区地域福祉計画策定委員会議事要旨

日 時：平成17年8月21日（日）午後2時～4時20分

場 所：畑コミュニティセンター講習室（2階）

出席委員：25名中18名出席

（敬称略、50音順）

欠席委員：東野委員、鳥井委員、貫井委員、深谷委員、船田委員

本間委員、町田委員、安川委員、吉岡委員

事務局：花見川区 村上区長、原田福祉事務所長

保健福祉総務課 森川主幹、仙田

地域保健福祉課 麓

保健福祉センター整備室 安井

健康医療課 服部

子ども家庭福祉課 松田

花見川区福祉事務所 大八木、高橋

壺橋保健センター 阿部

社会福祉協議会 関

傍聴人：0名

会議内容

次第に従い開会、村上花見川区長より挨拶後、会議が進められた。

< 議題 >

(1) 花見川区地域福祉計画素案について

計画構成は、総論と各論に大きく分かれており、第1章と第2章が総論部分、第3章と第4章が各論部分となっており、最後に資料編で構成されている。

総論部分と資料編、各論部分の「第3章の地域福祉の展開」の「基本目標及び基本方針」を事務局から、各論部分の「第3章の地域福祉の展開」の「3 基本方針ごとの取り組み内容」を作業部会から報告を行った。

なお、「第3章の地域福祉の展開」の「3 基本方針ごとの取り組み内容」については、作業部会を基本方針ごとにグループに分かれて作成を行ったため、各グループより報告を行った。

その後、以下のとおり質疑応答を行った。

(報告者)

基本方針 1 グループ 鈴木委員
基本方針 2 グループ 小松委員
基本方針 3 グループ 篠田委員
基本方針 4 グループ 原田委員

< 質疑応答 >

委員 : P 3 4 の「エ 高齢者・障害者への理解・配慮」で、「～迅速に手を差しのべられるよう努めます。」とあるが、表現があまり良くないのではないか。案として、「迅速に必要な手助けをできるように努めます」ではどうか。

また、障害者の立場で見ると、「障害者自身も、自らを障害者として認め」とあるが、この表現には違和感を持つ人もいるのではないか。いろいろな障害があると思うので、素直に受けとめられる表現が良いのではないか。

ここでは、障害者の苦手な部分やサポートを必要とする部分を地域に知ってもらい、理解してもらうという趣旨を伝えられるような表現がよいのではないか。

委員長 : まず、前段の「～迅速に手を差しのべられるよう努めます。」については、ご意見の案のとおり修正します。

また、後段の「障害者自身も、自らを障害者として認め」については、ご指摘の趣旨を踏まえ、今後の作業部会で修正を加えていきたい。

委員 : 子どもルームの利用状況がいっぱいであるという問題を聞いているが、本当に現状のところどうなのか。地域福祉計画にはほとんど盛り込まれていないが、あるいは盛り込まなければならないか、実情として認識しておきたい。

事務局 : 花見川区内の約 2 0 の子どもルームの 9 割が満員であると思われる。

いま言われたように、一人のスペースがはたして十分であるかどうか。定員がはたしてルームとしてふさわしいかどうか。足りない部分について待機についてどう対応していくのか。など検討していく必要があるかと思います。

現在小学校の空き教室あるいは小学校の敷地（隣接地含む）に子どもルームを設置している。10月に横戸小学校の近くに子どもルームを開設予定である。

(2) その他

事務局より、資料「今後の予定について」に基づき、当面の予定として、合同フォーラム、次回の区策定委員会等について説明をした。

< 質疑応答 >

委員 : 合同フォーラムですが、昨年の合同フォーラムでの参加者からの意見や感想を踏まえて、企画立案してほしい。

事務局 : 昨年度の合同フォーラムでのご意見等を踏まえ、作業部会を中心に合同フォーラムの進め方等について、検討していきたい。

以上